

ある人たちが、神殿が見事な石と奉納物で飾られていることを話していると、イエスは言われた。「あなたがたはこれらの物に見とれているが、積み上がった石が一つ残らず崩れ落ちる日が来る。」（ルカ21：5～6）

そこで、彼らはイエスに尋ねた。「先生、では、そのことはいつ起こるのですか。また、それが起こるときには、どんな徴があるのですか。」イエスは言われた。「惑わされないように気をつけなさい。私の名を名乗る者が大勢現れ、『私がそれだ』とか、『時が近づいた』とか言うが、付いて行ってはならない。」（ルカ21：7～8）

主イエスは従う者と共にエルサレム神殿の中を歩いておられた。すると、ある人たちが、神殿が見事な石と奉納物で飾られているのを見て、その壮麗さに感嘆の声を上げた。マルコ、マタイ福音書は感嘆の声を上げたのは弟子たちであったと書いている。ガリラヤから来た弟子たちは壮大な神殿に圧倒され、魅せられてしまったのであろう。主イエスは、「あなたがたはこれらの物に見とれているが、積み上がった石が一つ残らず崩れ落ちる日が来る」と、神殿崩壊を淡々と予告された。これを聞いた者たちは驚いて、「先生、では、そのことはいつ起こるのですか。また、それが起こるときには、どんな徴があるのですか」と尋ねた。彼らには、何十トンもの強固な石で造られた神殿が崩壊するなどとは思っても及ばぬことであった。崩壊するようなことがあるとすれば、それは終末の時だと思い、終末が来る時にはどんな徴がありますかと聞いたのである。それに対し、主イエスはまず、「惑わされないように気をつけなさい」と言われ、6つのことを語られた。①「私の名を名乗る者が大勢現れ、『私がそれだ』とか、『時が近づいた』とか言うが、付いて行ってはならない。」自分がメシアだと吹聴し、従うように誘うが、それらに付いていくなと忠告された。②「戦争や騒乱があると聞いても、おびえてはならない。」時代は混沌となるが、終わりの時ではない。③「民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がる。」民族、国家間の争いが起きる。④「大地震があり、方々に飢饉や疫病が起こり、恐ろしい現象や天からの徴が現れる。」天変地異に襲われる。しかし、これらのことが起こる前に、⑤「人々はあなたがたを捕えて迫害し、会堂や牢に引き渡し、私の名のために王や総督の前に引っ張って行く。」これは、あなたがたにとって証しをする機会となる。その時、前もって弁明の準備をすることはない。どんな反対者でも反論できないような言葉と知恵を私があなたがたに授ける。⑥「あなたがたは、親、兄弟、親族、友人にまで裏切られ、中には殺される者もいる。また、私の名のために、すべての人に憎まれる。」家族、友人と対立し、主イエスに従う者であるという理由で迫害を受け、全ての人に憎まれると言われた。

主イエスは、終末の前には、上記のような徴が現れると語られた。これは、いつの時代でも見られる混乱・カオスである。21世紀の今も、戦争が起こり、自然は荒れ狂い、疫病が流行っている。対立と分断が起こり、憎悪は拡がるばかりである。今が、終末の前だと理解してよいではないか。その時、主イエスを信じる者は福音を証しするために立てられている。その者たちは苦勞するが、髪の毛一本も失われることはなく、守られる。主イエスは最後に、「忍耐によって、あなたがたは命を得なさい」と勧められた。混乱した今が終末前の徴で、その今が、福音を証しする時である。この福音弁証を可能にさせるのは、全き救いに与る終末を待望する信仰で、その者たちは神の命が得られると語られた。